



## Enjoy Car Life!

REPORT ● 甲斐貴之 (Takayuki Kai)  
PHOTO ● 降旗俊明 (Toshiaki Furuhata)

# SUPER CAR RALLY CHALLENGE 2010

問い合わせ / NASC ☎026-273-4188 <http://www.nasc.jp/>

ド ライブだけに限らず、サーキットなどのクロードコースにおける競技やガレージ内での鑑賞メカニズムを対象とした機械イジリほか、趣味としてクルマを楽しむステージは様々。クルマを媒介とした他人との交流を嗜好する人も多いだろう。実際、週末や深夜のパーキングエリアには、同じカテゴリーに属する車種や趣味性を同じくするクルマと人が集結する姿が見られるし、隊伍を組んでツーリングする場面に出くわすこともある。日本はクルマ文化が未成熟だという批判もあるが、こうして多様にクルマを楽しむ風景を確認できるのだから、それほど捨てたものではない。特に今回、都心

にほど近い川崎市をスタートし、神奈川県の大磯までの公道を走るイベント「スーパーカーラリー」チャレンジャー2010」に触れた後では、その思いは益々強くなった。この公道ラリーは、スーパースポーツ&ワインテージモデルを対象として2010年にスタートしたばかりのカーイベントで、耐久やオフロードレースなどを手掛けるNASCが主催。ありがちなオリエンタリング風のタイムラリーと一線を画すのは、競技アドバイザーにミッシェル・ピアロ氏を招聘し、国際ルールと国際基準の計測機器を用いるなど、本格的なラリー競技として据えてい

趣味としてのクルマは、人によって千差万別の楽しみ方がある。例えば、見る・触る・走る・集まる……などなど。これらの要素を網羅し、クラシック&スーパースポーツカーを対象とする「スーパーカーラリー チャレンジャー2010」の第4ラウンドが開催された。都市部を走るストリートラリーの模様をレポートする。

## 公道ラリーのススメ。



「スーパーカーラリー チャレンジャー2010」は全4戦で競われ、最終ラウンドの今回は総勢50以上の名車がチネッタに集結。スタートする前の参加車を見て回っていたら、イベントを協賛するガーミンのPNDを装着したワインテージカーを多く見かけた。「手軽に装着可能で使い勝手が良い」と評判も良く、イベント参加者とスポンサーが良い関係を築いていたのが印象的。



### 現役レーサーも参加

チーム・タイサンを率いる千葉氏の入賞が、レーシングドライバーが多数駆けつける豪華なラウンドになった。飯田 章選手は1924年式ベントレーで、篠塚建次郎選手はテスラ・ロードスター、新井敏弘選手はタイサンF40、ターザン山田選手はヴァイパーをドライブし、ラリーを大いに盛り上げてくれた。



ゴール後のチネッタで行われた表彰式の会場に、伝説のレーサー高橋国光氏が登場。自身が所有するスカイラインGT-Rをチーム・タイサンに譲渡する旨の発表を行った。



## 川崎⇄大磯をラリー

4戦めとなる今回の東京ラウンドはチネチッタをスタート&ゴールとし、ターンバイクと大磯プリンスホテルを経由するコースを設定。スーパーカークラスとヴィンテージカークラスに分かれ、どれだけ正確なタイムでチェックポイントを通過したかで得点を競った。



一方、目を三角にして競技一辺倒にならぬようエンターテインメント性も提案する。1年間で全4ラウンドを競うこのラリーが、初回の軽井沢を皮切りに清里、北海道、今回の東京、箱根・湘南と、毎回メジャーな景勝地やリゾートをステージに組み入れたのは、ラリーと共に観光を楽しむ意図が

る点だ。もちろん公道走行がメインである以上WRRCのような過激な走行は御法度で、法定速度を遵守しつつ正確なタイムを刻むことでポイントを稼ぎ、各ステージで得た総合ポイントで順位を決定する。  
NASDCではラリースクール&トレーニングを度々開催して公道ラリーのノウハウや楽しみ方を啓蒙する

## ジムカーナステージに興奮

最終チェックポイントである大磯プリンスホテルの駐車場にコースを設け、参加車たちはジムカーナにチャレンジ。ターザン山田選手の見事なドリフト走行を筆頭に、渋滞で溜まったストレスを発散するようにコースへ挑んでいく姿が多く見られた。ここでも重要なのは速く走るのではなく、どれだけ正確なタイムでコースをクリアするか。



あるため。加えて参加車種のいずれもが渋滞を苦手とすることも、多分に影響しているだろう。  
こうしたスーパースポーツ&ヴィンテージモデルによる公道ラリーに、名門レーシングチームの「チーム・タイサン」が賛同し参加しているのもトピックスだ。サーキットで真剣勝負に明け暮れるレーシングチームが、リゾートを舞台とするアットホームな雰囲気の中で参加するというギャップも面白い。  
しかも、2010年の最終ラウンドである今回の「スーパーカーラリー チャレンジ2010」には、スタート&ゴール地点である川崎市

かれないレーシングカーが街中に行き、さらには公道を走行していくのだから壮観だ。  
また、篠塚建次郎選手や新井敏弘選手、飯田章選手、ターザン山田選手ほか、現役レーシングドライバーが多数参加していたことも見逃せない。プロとアマチュアが同じステージで競えるのもこのイベントの醍醐味。そこには本当にクルマを好きな人たちが集い、自慢の愛車を披露し走らせ、クルマを媒介にした交流を楽しむ……クルマ趣味人の理想とも言える光景が広がっていた。  
チネチッタをスタートした各車は首都高速から東名高速、小田原厚木道路を経由し、スポーツカーのメッカである箱根へと進む。チェックポイントが設けられたTOYOターンのバイクでワインディングドライブを満喫した後、一行は大磯プリンスホテルへ移動。ここでは広大な駐車場にジムカーナコースが設定され、最新のフェラーリ458イタリアから

1959年式のMGAまでが同じコースで腕を競った。  
ゴールのチネチッタまででは予想以上の渋滞に見舞われたものの、トラブルもなくラリーはエピソードを迎える。4戦を通して競ったポイントが最終ラウンドの今回で大逆転があり、シリーズチャンピオンが発表されると参加者一同から喝采がおきた。そして各賞の表彰と共に2010年度のチーム・タイサンの活動報告がなされ、さらに高橋国光氏も駆けつけるなど、終始和やかなうちに「スーパーカーラリー チャレンジ2010」は幕を降ろした。  
安全かつゲーム性が高く、誰でも楽しめるスーパーカーとヴィンテージカーの公道ラリー。様々なクルマ趣味のあり方を内包する、ちよつと欲張りで贅沢なこのイベントは、2011年も開催予定。興味を覚えた人は是非とも参加して欲しい。



ミッレ・ミリアへの参戦でも知られるタレントの塚正章氏も「スーパーカーラリー チャレンジ2010」にエントリー。初めてラリーに参加する人へアドバイスを送っていた。

